

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 「自ら学び、行動し、自分の力を伸ばそうとする子どもの育成」
- ② 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：三原善仁、教頭：山口義明、国語科推進員：野村みどり、算数科推進員：宮前祥子、研修主任：谷口久美子、教務主任：白岩佐恵子、特別支援教育コーディネーター：高島裕子、奥住千晶、山戸香里
野村 みどり 人権教育主事：上谷真奈、生徒指導主任：竹中紀章、分校主任：野村みどり

校長

三原 善仁

【小中連携における共通の取組】

学んだ力を発揮する機会や必要性を確保する。

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取組状況について報告する場をもつ。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については、多くの児童が身につけている。 ●高学年になるほど学力の差が大きい。既習事項を忘れていた児童がおり、新しい学習につまずくことがある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、既習事項を活用して自分の力で問題を解決することができる。	・漢字の読み書きや計算など基礎的・基本的な学習内容については、ドリル学習の時間などを活用して、繰り返し復習を行う。 ・放課後学習の時間を設定することで、個に応じた支援を行う。	・タブレットを活用し、個に応じた課題に繰り返し取り組めるようにする。	・基礎的・基本的な知識・技能については、繰り返し学習することで定着しつつあるが、個人差が大きい。 ・放課後学習の時間を設定することで、個に応じた支援を行うことができた。	・個に応じた学習ができるように指導方法の工夫や改善を行う。習熟度別の課題に取り組む時間を設定したり、タブレットの有効的な活用方法について検討したりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「聞くトレーニング」の時間を楽しみにし、聞くことへの関心が高い。教員や友だちの意見を最後まで聞くことができる児童が多い。筋道を立て、根拠や理由を明らかにしながら自分の考えを表現することができる児童が増えつつある。 ●読むことに対して苦手意識をもつ児童がおり、特に初見の文章に対しては抵抗を感じる児童がいる。読書への意欲が高いとは言えない。	・教員や友だちの意見を最後まで聞くことができる。筋道を立て、理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。 ・自分の力で文章を読み取り、課題を解決することができる。	・国語力向上タスクフォースについての研修を行い、教員が理解した上で各教科に取り入れる。 ・「聞くトレーニング」を継続して行い、聞く力を育てる。 ・自分の考えを相手に伝える場面を多く設定し、話す力を育てる。(ペア学習・グループ学習・一斉学習) ・教科書にない文章を読み取る時間を全校一斉に設定し、読む力を育てる。 ・担任による読み聞かせやブックトークを行うことで、読書へ関心を高める。	・教員が指導方法について学ぶことができるよう、校内での研修を充実させる。(職員会の時間を利用し、指導の基礎・基本についての研修を行う。)	・「聞くトレーニング」を行うことで、聞くことへの態度を養うことができた。 ・ペア学習・グループ学習に取り組むことで理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを表現できる児童が増えた。 ・教科書にない平易な文章を読み取る学習を繰り返すことで、読む力の底上げができた。 ・国語力タスクフォースについて、具体的な指導方法を理解できていない教員もいた。	・「いきいきタイム」の時間を活用し、全校一斉に同じめあてで学習に取り組む時間を設定する。 ・国語力タスクフォースについての研修の機会を増やし、具体的な指導方法について教員が充分理解し、意識的に各教科に取り入れることができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の読書、「すこやかタイム」の実施により、おちついて学習に取り組むことができている。授業では、めあての確認をすることで、意欲的に課題に取り組める児童が多い。 ●基本的な生活習慣や学習習慣が充分身につけておらず、学習への意欲をもてない児童もいる。	基本的な生活習慣が身につく。生活や学習の中でめあてをもち、自分の力を伸ばそうとすることができる。	・朝の読書、「すこやかタイム」を実施することにより、おちついて学習に取り組めるようにする。 ・学習を振り返り、次時の学習へのめあてをもたせる。 ・生活習慣チェックシートやキャリアパスポートを活用することで児童の実態を把握し、基本的な生活習慣を身につけることができるように指導する。 ・お便りや懇談会を活用し、家庭との連携を図る。	・学校全体で具体的方策に取り組んでいけるよう、メンター研修を通して教員が相互に情報交換できる場をもつ。	・「すこやかタイム」の実施や週目標の活用によって、基本的な生活習慣の改善に取り組もうとする姿が見られた。しかし、充分に基本的な生活習慣を身につけていない児童も多く、継続した指導が必要である。 ・学習のめあてを設定することで、自分の力を伸ばそうとすることができた。	・基本的な生活習慣については、家庭と協力しながら根気強く指導を行う。 ・学習の振り返りの仕方について工夫し、次時の学習へつなげていくことができるようにする。

令和4年度 学力向上ロードマップ



